令和４年度日本中体連審判規則委員会における
６人制ルールの取り扱いについての追加解説と、その他の確認内容

＜2022 年度日本中体連における６人制ルールの取り扱いについて＞

【１】競技参加者の行為に関する事項

※２　中学生は、対処を知らない場合があるので、必要に応じて説明、指導する。ただし、だらだらと長くならないように工夫する。

５　握手については感染症終息後、再開したい。

【２】プレーの動作

キャッチについて

判定基準が厳しくなったものではないと理解すること。

ワンハンドのプレーでキャリーが長い、２種類の動作を行っているなどは反則（ひっかき落とすような動作、ブロックに当ててからはじき出す動作など）

中高生では、ワンハンドのプレーよりもオーバーハンドのキャッチの反則がとれていないことが課題。引き入れるケース、乗っけて投げるようなケースなどでボールが止まる状況があればキャッチの反則。

ブロックの反則

アタックヒットと同時ならオーバーネットではない。

ネット際の相手方セッターのプレーに対して、そのプレーが返球ならばブロッカーのオーバーネットにならないが、トスプレーならばオーバーネットとなる。

取り戻しの範囲

相手方フリーゾーンの外でも、スコアラーズテーブルの後ろならＯＫ。

選手が最後に踏み切った足の位置ではなく、ボールの位置で判断すること。

（境界線上に壁があるという認識で判断）

【３】プレーの構造に関する事項

ポジションの反則

取り扱いで図解にて記載されていないが、横隣のプレーヤーだけでなく３名の位置関係についても追加説明あり。

※レフト・ライトのプレーヤーが重なることなく入れ替わっている場合は反則となること。

スターティングラインアップ

開始前に負傷した場合は、レフェリーに申し出て変更可能。

変更できるのは負傷した選手のみ。

【４】中断に関する事項

遅延の罰則が適用された場合は、他の種類の中断要求もできない。

退場、失格での選手交代

正規の選手交代ができない場合でも、例外的な選手交代が認められる。

退場、失格となった場合、その選手スタッフは控え室に行くこと。

※控え室がない場合は、コート面上にはいられない、指示を出せる場所にいることができないという認識で判断する。

監督が退場・失格となった場合

本来、中体連では監督が退場、失格となれば試合を続けることができない。

しかし、代わりに引率責任できる者が会場内にいる場合は試合続行を認める。

※退場となった監督は、本来は次のセットにベンチに戻ることができるが、中体連では、次のセットになったとしてもその試合中復帰することができないものとする。

【５】チームリーダー

中体連では全国大会の準決勝、決勝以外は、これまでと同じくラリー中、監督はベンチに着席するようにお願いをする。

＜その他＞

・選手交代やリベロリプレイスメントの際に礼をする行為について

サイドライン上で立ち止まる動作は必要だが、礼の動作はやらなくてもよい。

・セット開始前のハドル（円陣）について

スターティングポジション確認の後にコート内でハドルを組むことも認める。

ただし、７人まで。８人ではリプレイスメントがわからなくなるのでダメ。

ポジション確認の前でも８人が入ることはダメ。

この場合、セット始めのリプレイスメントのみ、ライン上での立ち止まるリプレイスメントの動作は不要。

・スクリーンの反則について

反則は存在しているが、反則が成立するケースはほとんどないと考えられる。

意図的に動いて隠そうとしているような場合はマナーの問題となる。

・リベロがキャプテンとなる場合のゲームキャプテン確認のタイミング

初回のリプレイスメントの後に確認すること。

・ネット上部の白帯付近に当たったボールの判定について

ファーストレフェリーの目で見て、ブロックへの接触が確認できるのであればプレーは継続させること。（そのボールが相手コートに返るかどうかは関係ない。）

以上が、４月２３日に実施した日本中体連審判規則委員会にて説明、確認された内容です。記載した内容について、不明な点や質問などがありましたら遠慮無く、こちらまでお問い合わせください。よろしくお願いします。

奈良県中体連バレーボール競技部　審判委員長
葛城市立白鳳中学校　岡田　崇
携帯：０９０－１４４４－８０７２